

町田市議会議員・情報公開の街

吉田つとむ

交通文化都市・4 期連続トップ当選



左上 blog



右上 HP



下左 Mail



インターン体験記⑩渡部 結衣

委員会と本会議による議論のスタイルと内容の相違

今回のインターンでは、令和七年（2025 年）第 3 回町田市議会定例会の総務常任委員会と健康福祉常任委員会を傍聴しました。傍聴席から見て右側には、それぞれの部署の課長が並び、委員会ごとに順番に説明を行っていました。総務常任委員会では、財務部、防災安全部、経済観光部、農業委員会事務局、選挙管理委員会事務局、監査事務局、政策経営部、総務部・会計課、議会事務局が登壇し、健康福祉常任委員会では、いきいき生活部、市民病院、保健所、地域福祉部がそれぞれ担当事項を報告しました。主な議題はいずれも予算や決算に関する内容であり、その説明を受けて、吉田議員をはじめ市議会議員が順に質問を行っていました。特に吉田議員は、契約や予算、納税に関する事項に焦点を当てているように感じられました。前回の定例会を傍聴した際には、議員によって質問内容に多様性が見られたのに対し、今回は形式的な流れに沿った、いわばテンプレート的な議論が多く交わされていたことが印象的でした。



今回の傍聴を通して、行政が多岐にわたる分野に関わっていること、そして市議会がそれぞれの分野を委員会で分担して議論していることを学ぶことができました。同じ「定例会」の中でも、本会議と委員会とでは議論のスタイルや内容に違いがあることを実感し、地方議会の仕組みをより深く理解するきっかけになったと感じています。

大妻女子大学 1 年生 渡部 結衣(第 56 期生)

◎ インターンシップは、本会議や委員会の会議を身近に傍聴したり、行政機関の仕事・施設を訪ね、見学・インタビューできる日程を組んでいます。また、民間企業の経営者の方や過去のインターン体験者の話を聞ける機会も設定しています。

2025 年(令和 7 年)の 3 月の卒業生では外資大手に就職し、元気に働いている知らせを受ける。

インターン体験記⑨岡田 愛海

能ヶ谷村と岡上村の堰場出入一件

今回のインターンシップでは、鶴川のポプリホールにて行われる学習会に参加しました。

鶴川駅周辺の飛地となった川崎市と町田市に、かつて存在していた『能ヶ谷村と岡上村』の堰場出入について、当時作成された地図や古文書を元に解説して頂きました。地図を見比べていると、江戸時代から現代にかけてどのように町が変わっていったのかが分かり、変化する人の営みを想像する面白さがありました。絵と違い古文書は読解力が試され、手書き文字で書かれた漢字の判別は読論文なしではとても難しいものでした。しかし、江戸時代の古文書を拝見できたのはとても有意義なことでした。

私達の住む町が江戸時代だった時、どのような姿をしていたのか気になっている人も多いのではないのでしょうか。実際の写真はおそらく無いと思われますが、残された史料から得られる無数の情報は、山々の連なるかつての町を想像させてくれると、私は今回の学習会を通してそう感じました。

学習会で提示された史料は市に数多く納められたものの一部らしく、川崎市と町田市にかつてあった村で行われていた出来事や、このような川にまつわる話はまだまだ眠っています。

そんな歴史の一片を覗かせてもらえる、良い機会を頂きました。



横浜美大学 4 年生 岡田 愛海(第 56 期生)

町田市議会 会派「無所属」

市長に追随することなく、補正予算に修正案提案

町田市議会

〒194-8520 東京都
町田市森野 2-2-22
(町田市庁舎 3F)

☎042-724-2171

「無所属」会派室



町田未来づくり研究所の発想の誤解

町田市が多摩のリーディングシティを目指す発想の幻想性

町田市のシンクタンク：町田未来づくり研究所は、町田市が多摩のリーディング都市を目指す発想を基本にしていますが、それは、以下の理由で現実としてあまりに幻想的な発想に過ぎないものです。町田市は指標としての東京の市部の 2 番目に大きな自治体と言う存在ですが、その町田市の経済文化は多摩地域と言う様相のごく一部にしか過ぎません。現実には、その市民生活において区部との関係（小田急小田原線、東急田園都市線、京王相模原線）が大きく、あるいは神奈川県 の 3 政令指定都市と行政界が隣接して身近に存在しているのが特徴です。同じ多摩地域と言われても西武新宿線沿線とはほぼ生活の縁がありませんし、一般にはなじみの JR 中央線すら日常生活圏とは異なるものです。

今後、多摩モノレールが延伸開通して、町田市内の交通不便地域の生活向上につながる面もありますが、所詮、町田市全体に取って立川市とつながるメリットは中規模輸送力の一交通路線が新設されるに過ぎないと言えましよう。交通インパクトでいうと、リニア中央新幹線が相模原市緑区橋本にでき、都心の品川駅と直結して利便性を高める価値を示せば、町田市はその枢要な周辺エリアを形成する意義が大きくなると言えるでしょう。

さらに、町田市は、そのリニア中央新幹線駅と東海道新幹線新横浜駅の中間に位置しており、今後はその交通位置関係を生かすことが肝要で、町田市が多摩地域と言うことに拘泥することは経済文化の発展の足かせとなるでしょう。そうした観点で町田市と町田市民の将来の姿を見ることが真に町田市の発展に必要な考え方であると言えるでしょう。



◎町田市議会は定数 36 名(欠員 3 名)、議員は原則「会派」単位に活動し、一般質問は個人で行います。採決は概ね「会派」単位、会派「無所属」は自由に賛否を決める場合もあります。

◎住民請願は事務局に提出、相談して下さい。署名が必要なものは会派に連絡して下さい。

一般質問：キャリア教育と職業教育の関係

町田市は、「小中一貫町田っ子カリキュラム」

教育委員会に対して、キャリア教育と職業教育の関係を尋ねました。町田市は、「小中一貫町田っ子カリキュラム」と言う名称で、キャリア教育を進めています。文科省は、キャリア教育と職業教育を 2 本立てで構想していると文面から読み取りましたが、町田市の見解では職業教育は高校・大学で行われるもので、(義務教育の)小中学校では実施していないというものでした。町田市は「キャリア・パスポート」というものを作成していますが、町田市では職業教育を実施していないために、卒業者にもその先の進路先にも職業教育の成果を盛り込みようがありません。



話の趣旨として、「お金は汗水を流して稼ぐものと理解しているが、現実には、どういう方法かは別にしてお金を自分で稼ぐ必要性を育成すること、あるいは就業する意識を持つことが欠かせない考える」という意見を様々の視点から述べましたが、ほとんど反応はありませんでした。その観点から、子どもの世代に対して、「なんでも無料」の施策ばかりを見せて、それが小中学生の将来の役に立つのか。という今の教育の現状や時勢に疑問を呈しました。

良識ある保守主義・情報公開の伝統

会派「無所属」

議員個人の自由な主張と立場を生かす

町田市議会議員
会派「無所属」に所属
吉田 つとむ
自宅 042-795-7361(TEL&FAX)
yoshidaben@gmail.com



決算付帯意見：商店街事業補助金見直し

決算認定の付帯意見では、全部で 24 件を提案しましたが、2 件が他委員の意見と統合、数件が文言の一部を修正した結果、全ての意見が（全員）可決の採決となりました。



「（54）町田市商店街チャレンジ戦略支援事業補助金、及び、東京都地域連携型商店街事業費補助金の使途に関して、それらの事業が商店街の発展にどのように繋がっているか不明な点があり、それらの事業の有効性の再点検を図りたい。」という提案も支持された付帯意見の一つでした。その趣旨は、商店街の発展のための支援施策補助金が、商店街イベント事業予算の補助金となっており、そこでは販売されるや焼きそばや焼き鳥の売り上げが良かった、人気があったという話題が中心になっている問題を取り上げました。イベント来場者数やその場の模擬店販売がにぎわっても、その後に商店街の顧客の拡大につながったり、個別商店の売り上げ増をもたらしているのか疑問であり、現状は商店街の個別店舗も、シャッターを下ろしたり、閉業する傾向が著しくなっており、商店街自体も衰退の道をたどっている状況です。また、街が高齢者ばかりかと言うとそうでもなく、学習塾や放課後デイサービス施設などはさらに商店街の中に拡充しています。

電子投票システムの勉強会の主要議論

東京都内議会最初の勉強会を町田で開催

議会も DX 化の時代を迎えていますが、その投票システムは未だに紙が使用され その開票時には多大な人力と時間を要しており、町田市の選挙もその代表的な例になっています。その効率化対策として、電子投票システムが導入されるのですが、新たに「京セラ株式会社」が開発した電子投票機（汎用タブレット機）を用い、同社員の方々が説明を行う勉強会を東京都内で初めて、「無所属会派」が全会派の参加者を迎えて開催したものです。電子投票選挙の一番のメリットは、投票機（タブレット）の画面の候補者氏名を選択することで、誤字・記入漏れを無くし、いわゆる按（あん）分票も発生しなくなることです。次いで開票時間が、USB あるいは SD カードのデータを読み取るだけで済み、開票時間が大幅に短縮されることです。メーカーの算出で 1 万票の集約が 2 分 40 秒（1 台のパソコン使用）という実績が示されています。



デメリットは、システム障害が過去に発生した例がありましたが、それは複数の投票機を 1 台のサーバーにつないだクライアントサーバー方式の機種で起こりました。現在は、各投票機ごとにデータ保存をする方式（スタンドアローン方式）の機種に一元化されました。また、インターネット投票は現在のところ研究課題で、その投票者の機密性の漏洩、データ改ざんの恐れがあり、採用されていません。この電子投票システムを用いた選挙は、国の新基準が策定後、大阪府四條畷市の市長・市議補選（2024 年 12 月）の 1 例しかなく、次の実施自治体としてどこが続くか大きな関心事となっています。

◎町田市議会の所属委員会や個別の会派では、それぞれに行政機関や他の議会を対象にした地方視察を行っています。上記の掲載する記事は、それらと異なり、独自に民間の展覧会や公的施設に直接申し込みを行い、現地見学したものも含んで掲載しています。

◎会派・個人で行った見学・インタビューも、議会の一般質問や質疑に活かしています。

町田市議会 会派「無所属」

政党に属しない無所属議員で構成する

町田市議会
〒194-8520 東京都
町田市森野 2-2-22
(町田市庁舎 3F)
☎ 042-724-2171
「無所属」会派室



一般質問：工芸美術館建設費と寄付金額

工芸美術館建設費は市民寄付額の 1000 倍！

「町田市の（仮称）工芸美術館建設への寄付金額は、建建設費相当の数十億か、数億か、数千万ほどこ」と質問しました。この質問は、町田市の（仮称）工芸美術館建設への市民的な共感がいかほどあるかを問うたものです。

しかし、答弁ではふるさと納税で「数百万円レベル」とのことでした。この工芸美術館建設は契約不調が続き、さらに 4 回目の入札で仮契約した企業がその解約を申し出るという前代未聞の事態が起き、さらに町田市はその入札金額を引き上げるための増額補正予算を建て、議会が賛成多数で支持する不思議な事態をもたらしているものです。本来ならば、次の機会に市民の判断を仰ぐべき事業です。

町田市は市民の声を聞いたというのですが、そもそも、今期の石阪市長が公約から外していた事業です。5 期目当選後に改めて事業化を進めてきたものですが、市民や他の人々の共感度合いは、工事費（50 億円になろうとしている）の千分の 1 ほどの金額しか寄付金で集まってこないものです。今回の質問は（仮称）町田市立国際工芸美術館というものが、市民の共感をいかほど得られているか、大半の市民には支持は得られていないという証明を数字で明らかにしたものです。



町田市の基本構想のイラストを使用

◎一般質問は、議員個人と行政のやり取りです。石阪市長の時代になって本人が答弁をせず、部長のみが答えるケースが増大しています。会議における行政の発言は、部長が答弁したからといって市長の責任がなくなったり、軽くなったりするものではありません。

基本的に、市長の施策を評価する意見には石阪市長が答え、他は副市長や部長が答えてきました。

町田市の国民健康保険料の額について

国保の最高負担額はもう限界なのではの声あり

国民健康保険料の負担が大きいと言う話をたびたび聞きます。まず、金額の上限は以下の数表（町田市 HP から必要部分を転載）の通りです。国民健康保険の加入は、基本的に「社会保険（健康保険）」に入らない人たち（自営業や年金者など）に義務的に課されるものです。下記の表にあるように、負担額は、当事者の所得に関わる比重が多くなっており、最高額は、百六万円！となっています。なお、別途、災害被災者などに減免、低所得者への減額措置があります。

町田市の国民健康保険料率(単位：円)

項目	所得割	均等割	限度額
A:医療分	6.61%	38,900	650,000
B:支援分	2.22%	12,900	240,000
C:介護分	2.00%	15,000	170,000
合計数値	10.83%	66,800	1,060,000

* 市 HP には令和 6 年度料率が掲載されている

国民健康保険の運営については、その一部は町田市の財政から出ており、社会保険（健康保険）加入者に対して、不公平をただす観点から国民健康保険料によって賄う原則から、所得割と均等割りの上限が、その改定時期ごとに引き上げられていますが、他の手段も同時に取れないと、負担者（特に、高額負担者）の反発が大きくなるでしょう。（2025 年 5 月記）